〔兼葭堂雜錄三〕南都東大寺八幡宮の神庫に納むる所の綾蘭笠といへるあり、是はいにしへ天平勝寶二年より天文八年の頃まで轉轉會といへる祭禮行われし時、渡御の節に用ひし物とぞ、其形最古雅にして蘭を以て作り、麥藁にて上を裝ひ、紅白の絹、紅紫の革等を以て飾り、裏は藍染の布をはり、紐も同じき布を用ひ、枕を付ず、是は烏帽子などの上にも著たるものなる故とぞ、略○下

〔和漢三才圖會二十六服玩具〕菅笠略○中

葛籠笠　出於江州水口、以上二品、○塗笠、葛籠笠、婦女以禦暑、

〔我衣〕明暦比ヨリツヾラ笠出タリ、若キ女カムル、紐紅淺ギナリ、タメニヌリ内黑ヌリニシタルハ老女カムル、元祿ノ比、幸新九郎妻、御免ノ淺ギシラベ、家ノモノニシテ笠ヒモニシタルコトアリ、外ニ不見、ツヾラ笠ナリ、

〔嬉遊笑覽三器用中〕つゞら笠、略○中　風流旅日記三　水口の條、一むかし已前はやりしつゞら笠、今は見苦し云々、此所今もつゞら細工名物なり、貞享四年かぐいへれば、延寶四年ごろ流行しなるべし、西鶴榮雅咄に、浮世つゞら笠と、當世風をいべるは天和頃なるべし、此つゞら笠を女のきること、貞享年中より廢れて、後安永天明のころ又はやりて、寛政中廢れたり、

〔守貞漫稿二十九笠〕葛籠笠○圖略

葛籠笠モ形島笠ト同キ物多ク、又他ノ形モアリ、皆白ニテ用之、今嘉永ニ至テ、初テ江戸男子用之、古ハ女用、今ハ男用トナル、京坂ハ不用之、江戸モ特ニ風流ヲ好ム男子用之也、價銀二十目許リ、上製也、江州水口驛ヨリ製シテ漕之レドモ、精製ナルガ故ニ、彼地ニモ多ク造之ノ工稀也、

〔好色一代男四〕目に三月

首筋の白き事、木地の葛籠笠に、白き紐を上に結ばず、略○中是は何人ぞと聞く、さる御所方の御女蔕樣達、略○中毎日の御遊山、かはりたる御物好と語る、